

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

東方文化学院京都研究所旧蔵漢籍の整理と研究

A Bibliographic Research on Old Chinese Books Previously Housed in the Kyoto Institute of the Academy of Oriental Culture

2. 研究代表者氏名

矢木 毅

Yagi, Takeshi

3. 研究期間

2016年4月-2021年3月(5年目)

4. 研究目的

東方文化学院京都研究所は1929年に外務省の助成により設立された。今日の人文科学研究所東方学研究部（東アジア人文情報学研究センター）の前身である。旧蔵の漢籍はすべて東方学研究部に継承されており、その内容は『東方文化学院京都研究所漢籍目録』（1938年）によって詳細に知ることができる。なかでも天津の蔵書家・陶湘の旧蔵書、特に叢書を多く含むことで学術的にもその価値が高い。本研究班はこの目録に掲載された漢籍の書誌情報を再吟味し、これに詳細な典拠情報を加えることによって、現行の電子目録（KANSEKI）の情報精度をさらに向上させることを目的とする。序跋等のテキスト・データを含めた典拠情報は逐次インターネットを通して発信し、蔵書印については図録を作成して刊行する。来るべき90周年、100周年の節目に向けて、近代東アジアにおける学知の原風景を探り、学術史の再構築を図るための展示会、企画展なども開催したい。

The Kyoto Institute of the Academy of Oriental Culture was established in 1929 using a grant-in-aid from the Ministry of Foreign Affairs of Japan, and it has hence developed into the Department of Oriental Studies of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University. The Institute has inherited all the old Chinese books that were once housed in the old one, and the details of the collection can be seen in the Catalogue of the Old Chinese Books housed in the Kyoto Institute of the Academy of Oriental Culture, published in 1938. This collection is well known and is highly valued in the academic world, particularly because it contains a series of books that were once housed by

Tao Xiang, a famous bookkeeper in Tianjin, China. Our research project reexamines the information in the Catalogue and attempts to enhance the accuracy of the KANSEKI database, an online catalogue based on the Catalogue. The project involves the creation of an additional database on the prefaces and postscripts of the books. It will also involve the collection of information about Ex-libris Ownership Stamps and their publication in pictorial books. In the near future, as part of the celebrations of the 90th and 100th anniversaries of the institute, exhibitions will be held with the objective of reviewing and restructuring oriental studies in Japan.

5. 研究成果の概要

毎回の会読の成果を「典拠情報」にまとめ、漢籍データベースの書誌情報にリンクさせた形でウェブ上に公開している。また蔵書印については『京大人文研蔵書印譜』と題する図録のシリーズを東アジア人文情報学研究センターより刊行しており、本年度はその第四冊を刊行した。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

京大人文研蔵書印譜（一）（東方学資料叢刊第 16 冊、2008 年、漢字情報研究センター）、京大人文研蔵書印譜（二）（東方学資料叢刊第 21 冊、2016 年、東アジア人文情報学研究センター）、京大人文研蔵書印譜（三）（東方学資料叢刊第 25 冊、2018 年、東アジア人文情報学研究センター）、京大人文研蔵書印譜（四）（東方学資料叢刊第 28 冊、2020 年、東アジア人文情報学研究センター）、朝鮮本十選（東方学資料叢刊第 22 冊、2016 年、東アジア人文情報学研究センター）、排印本十選（東方学資料叢刊第 23 冊、2017 年、東アジア人文情報学研究センター）、字書十選（東方学資料叢刊第 27 冊、2019 年、東アジア人文情報学研究センター）。

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度より新規に「東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究」班を組織し、引き続き序跋・蔵書印等の調査・研究を進める。